

高温に関する異常天候早期警戒情報に伴う 農作物等の管理対策

平成30年7月20日
新潟県農林水産部

新潟地方気象台から7月19日14時30分に発表された「高温に関する異常天気早期警戒情報（北陸地方）」によると、7月24日頃から8月2日まで、7日間の平均気温が平年よりかなり高くなる確率が30%以上と見込まれます。また、同日に発表された「北陸地方1か月予報」によると、8月20日までの向こう1か月の平均気温は、高い確率が70%となっています。

しばらく気温が高い状態が続くと予想されることから、今後の気象変動に十分留意し、下記の管理対策の徹底をお願いします。

熱中症を防止するため、農作業は気温の高い時間帯を避けるとともに、水分補給をこまめに行うなど十分注意してください。

記

1 水 稲

「水稻の生育状況と今後の管理対策」第6号（7月20日発行）を参照してください。
なお、今後第7号（7月26日発行）及び第8号（7月31日発行）を予定していますので、参考に願います。

2 大 豆

（1）干ばつ対策

開花期以降の大豆は、夏期の土壤乾燥により、落花・落莢、小粒化の被害を受けやすいので、以下の干ばつ対策を確実に実施する。

ア 暗きょ栓の管理

地下水位が60～70cm以下に低下する排水の良いほ場では、暗きょ栓を閉めて、土壤水分保持に努め、夏期の干ばつ害軽減を図る。

イ かん水

（ア）かん水は、朝や夕方時間帯から本葉中央の個葉が直立し、ほ場全体で葉の裏面が目立ってきた場合や、地下水位が60～70cm以下に低下した場合に実施する。

（イ）かん水を行うほ場は、周囲明きょや弾丸暗きょ等が施工され、1日以内に地表水を排水できるほ場に限る。

（ウ）かん水時は暗きょ栓を閉じ、かん水終了後に開放する。

（エ）湿害を防止するため、畝の上までかん水しない。

（2）病虫害防除

ダニ類など高温時に多発する害虫の発生動向を把握し、被害が見られ、拡大が懸念される場合は早めに防除を行う。

3 園芸作物共通

- (1) ほ場の乾燥や地温上昇抑制のために、夕方又は早朝等のかん水や敷きわら、敷草、マルチ被覆等を行う。
- (2) 施設栽培では、高温障害が発生しやすいため、急激な温度上昇のないよう遮光や換気などを行い、適切な温度・湿度管理に努める。
- (3) 薬剤散布は、朝夕の涼しい時間帯に実施する。高温時は、薬害の発生を助長する恐れがあるので実施しない。

4 野菜

(1) 育苗・定植時の管理

- ア 苗床温度の上昇を抑制するため、寒冷紗等の遮光資材で被覆するとともに、換気・通風に努める。特に、接ぎ木養生中のきゅうりでは、外張りトンネル遮光で温度低下に努める。
- イ 苗の徒長を避けるため、かん水は早朝を基本とし、日中高温時にしおれる場合は葉水を行い葉面温度の低下を図る。晴天が続く場合は育苗後半の節水は軽めとする。
- ウ 定植後の活着を図るため、定植作業は夕方行う。また、畝立て後の土壌の乾燥に注意し、乾いている場合は植え穴に十分かん水してから定植する。かん水が難しい場合は土壌水分確保のため、定植直前に耕うん・畝立てをする。
- エ いちごでは、気温の高い日中は葉を湿らす程度の水量をこまめに散水し、子苗の葉焼けを防止する。

(2) かん水の管理

- ア 土壌水分の確保と地温低下を図るため、かん水施設のあるほ場では夕方にかん水する。畝間かん水する場合は、根腐れを避けるため長時間滞水しないようにする。
- イ 乾燥により発芽率低下や発芽が不揃いとなるだいこん、にんじん等は、発芽の安定を図るため、発芽までスプリンクラーなどで1日数回かん水し土壌表面の乾燥を防ぐ。
- ウ 地温を低下させるために畝面又は畝間かん水を行うとともに、葉焼けを防止するため日中は葉水を散布する。

(3) 病虫害防除

高温・乾燥が続くとハダニ類やアザミウマ類、オオタバコガ等のチョウ目害虫並びにうどんこ病の発生が多くなるので、発生状況に応じて防除する。

(4) 品目別の栽培管理

- ア すいかでは、草勢が弱っているほ場において、「肉質劣変果」の発生が懸念されるため、収穫前には必ず試し切りを行い、品質を確認する。
高温により、日焼け果の発生が懸念されるため、露出している果実はワラやつるなどで覆う。また、草勢が低下しないように定期的にかん水する。
- イ トマト、なす、ピーマン等の果菜類では、草勢低下を防ぐため、早期収穫に努める。また、通風と採光を図るため、下葉や弱小枝を除去する。
- ウ 加工トマトは、日焼け果、着色不良を防ぐため、果実をワラ等で覆う。
- エ ねぎでは、高温時の過度な土寄せ、かん水等は生育停滞や軟腐病など、病害の発生原因となるので避ける。また、軟腐病発生ほ場では、出荷物に罹病株を混入しないよう選別を徹底する。
- オ えだまめは、かん水と収穫前追肥で草勢を維持する。
- カ さといもやアスパラガスは、かん水で生育停滞を防ぐ。

5 果 樹

(1) なし

ア 果実肥大の最盛期に入ることから、石なし等の生理障害防止のため、可能な限りかん水する。あわせて、土壌水分の急激な変化を抑えるため、敷きわら等により乾燥防止を図る。

イ 樹体や果実の日焼けを防止するため、過度な新梢管理を控える。

(2) ぶどう

ア 摘房は縮果症を助長するので、高温時はできるだけ控える。

イ 露地作型では、着色状況を確認しながら「水回り期」に最終着粒数に仕上げる。

(3) もも

高温多照の状況下では、除袋作業をやや遅めとする。

(4) 収穫期の留意点

可能な限り果実品温の低い時間帯に収穫し、果実品質の低下を防ぐ。

(5) 病虫害防除

高温期はハダニ類の世代交代サイクルが早まるため、発生状況に十分注意して適切に防除する。

(6) その他

草生栽培園では、果樹と雑草の土壌水分競合をさけるため、草刈りを行う。

6 花 き

(1) 球根類

ア 球根類の貯蔵にあたっては、通風に留意し、貯蔵庫内の温度をできるだけ下げよう努める。ただし、過乾燥にならないように注意する。

イ 促成切り花用チューリップ球根については、花芽分化を促進させるため、中温処理（冷蔵処理開始予定日の3週間前から20℃冷蔵庫内で管理）を行うとともに、必ず花芽の確認を行い、無理の無い冷蔵計画を立てる。また、中温処理を行う際は、エチレングスによる障害発生を防止するため腐敗球の除去を徹底するとともに、十分な換気を行う。

ウ ユリの球根養成ほ場では、適切なかん水に努める。

(2) 切り花類及び花木類

ア 草丈やボリュームを確保するため十分なかん水を行う。ただし、収穫間際のものについては過剰なかん水は控え、切り花品質の向上に努める。

イ かん水は、日中の暑い時間帯を避け、夕方の気温・地温の低い時間に十分に行う。畝間かん水を実施する場合は、長時間の滞水を避ける。

ウ 抑制ユリ切り花栽培では芽伸ばし・順化处理を十分に行うとともに、定植前に遮光とかん水を行って地温低下と土壌水分の確保に努める。また、植付け後は発根促進を目的に、敷わらやこまめなかん水を行う。

エ キク、トルコギキョウ等の草花類では、寒冷紗等の遮光・遮熱資材を利用して葉温の上昇を抑制し日焼けの防止を図る。また、ハウス側面のビニールや周囲の遮へい物等を取り除いて通風を図る。

オ 採花は朝夕の涼しい時間帯に行うとともに、採花後は速やかに涼しい場所で水揚げを行い、蒸散の抑制と品温の低下を図る。

カ オリエンタル系ユリ切り花では、高温期の採花において出荷前の予冷温度が低すぎ

ると花しみ障害が発生しやすいので、予冷温度は10℃程度で行う。

キ 鉢物類は鉢土の水分に注意し、十分にかん水する。

(3) 病虫害防除

ア 高温・乾燥が続くと、ハダニ類、アザミウマ類の他、キク、ヒマワリ、トルコギキョウ等では、オオタバコガ等チョウ目害虫の発生が多くなるので、発生状況を早期に把握し、迅速に防除する。

イ ユリ切り花では、茎腐症（リゾープス菌）等の発生が懸念されるので、防除の徹底に努める。

7 畜産

(1) 飼養管理

ア 暑熱は家畜の疾病を誘発するため、異常がある場合は早めに獣医師の診療を受ける。

イ 種付け予定の家畜は畜舎の一番涼しい場所に繋ぐ等、管理をこまめに行う。

ウ 家畜の体感温度を下げるため、寒冷紗の設置、送風機、細霧システムの運転や毛刈りなどを実践する。

エ 変敗や劣化を防ぐため、飼料は風通しの良い涼しい場所に保管する。

オ 採食量の低下を防ぐため、飼槽や飲水設備を点検・清掃し、良質な飼料やミネラル、重曹、新鮮な水の給与に努める。また、飼料は朝晩の涼しい時間帯に給与する、粗飼料の長さを変える、給餌回数を増やすなどの工夫をする。

カ カビの発生した飼料・品質の悪い飼料は食べ込みが悪く熱を発生させるので給与しない。

(2) 飼料作物

ア 牧草の2番草は、天候に合わせ速やかに収穫する。また、永年性牧草は夏枯れ防止のため、盛夏では刈り高を10cm前後として貯蔵養分の消費を少なくする。

イ サイレージの品質を確保するため、飼料用トウモロコシは黄熟期、ソルガムは開花～糊熟期に収穫し、細断、密封を確実にを行う。

8 きのこと

(1) ハウス内の高温による生育障害を防ぐため、換気による適切な温度・湿度管理に努める。

(2) 高温下では、きのこの品質低下が著しいので、適期収穫に努める。

(3) 収穫したきのこは、速やかに保冷库等で保管する。

(4) 露地栽培については、通風確保や散水などによる温度・湿度管理に努める。

(5) 極端な温度変化による影響の早期発見に努め、適切に対応するよう留意する。